

介護業務及び介護ロボットに関するアンケート調査集計

調査時期：平成30年3月

回答者数：49名（サポートセンター門司：10名、好日苑大里の郷：10名、
足原のぞみ苑：10名、杜の家：10名、聖ヨゼフの園：9名）

I 回答者の属性

1 性別 (人)		2 年齢 (人)					
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	無回答
23	26	11	19	14	3	1	1

3 介護現場での経験年数 (人)

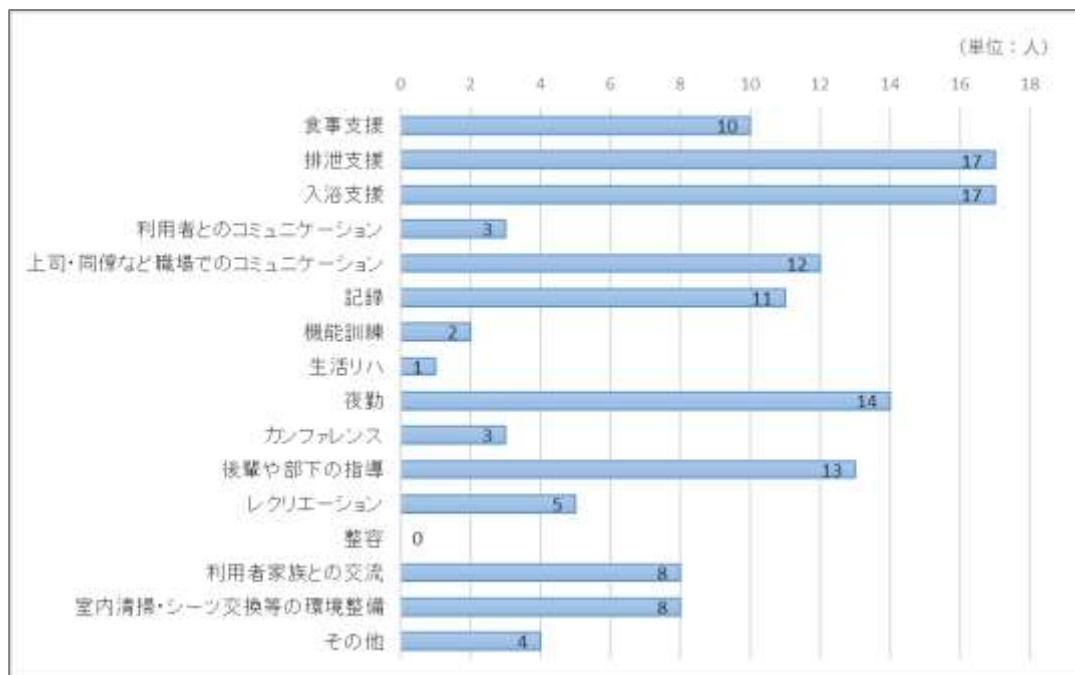
1-2年	3-4年	6-9年	10-14年	15年以上
5	7	17	11	9

II ロボット導入前の介護職員の状況

1 心身の状況 (人)

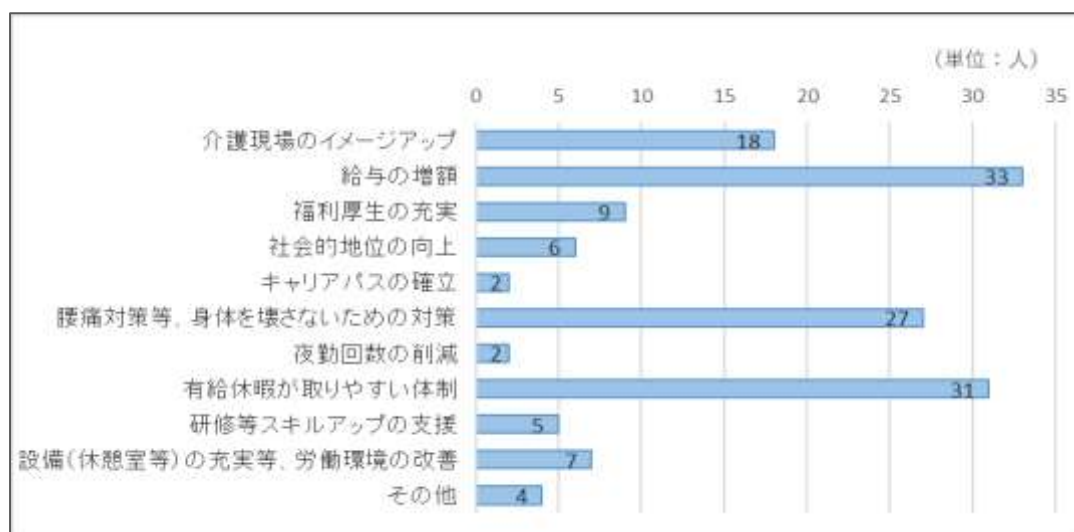
腰の痛み	特に感じない	6
	たまに感じる	19
	しばしば感じる	8
	いつも感じる	16
肩や腕の痛み	特に感じない	12
	たまに感じる	16
	しばしば感じる	10
	いつも感じる	11
膝や足の痛み	特に感じない	17
	たまに感じる	19
	しばしば感じる	8
	いつも感じる	5
職務上の悩みや不安等	特に感じない	8
	たまに感じる	19
	しばしば感じる	9
	いつも感じる	12
	無回答	1

2 普段の業務のうち、負担が大きいと感じている業務



※複数選択のため職員数の重複あり。

3 介護の仕事に関して思っていること



※複数選択のため職員数の重複あり。

Ⅲ ロボット導入後の介護職員のアンケート結果

1 ロボットを使用した職員数

(人)

移乗アシスト装置	Hug	SASUKE	スマートスーツ	みまもりCUBE	ネオスケア
23	9	6	26	7	29
すま～人Helper	インカム	パルロ	屋内移動アシスト装置	Tree	
42	45	20	6	8	

※ 職員数は重複あり。

2 ロボットに対するイメージの変化 (人)

変わった	変わらない
22	27

変化した理由

- 業務の中でスムーズに動けることが増えた。
- 慣れるまで大変だが、利用する中で楽だなど思うことがあった。
- 単に職員をアシストするだけでなく、間接的な介助を減らすことでより利用者の介助に関わることができる。
- 使用の手順が多く時間がかかると思っていたが、覚えてしまえば手早く利用できる。
- ロボットは使い方によって、便利にもなるが不便にもなる。
- 利用者が明るくなり笑顔が増えた。
- 準備に時間がかかる。
- 操作方法が難しいと感じた。
- 現場に合っていないと使用が難しい。

3 介護ロボット利用による身体的負担感の変化 (人)

減った	増えた	変わらない	無回答
17	3	28	1

変化の理由

- 夜勤時の訪室、記録の手間が減った。
- 移乗する時に時間はかかるが腰の負担が楽になった。
- インカムを使用することで職員を探す手間がなくなった。
- 介助時の負担は減ったが、作業に時間がかかり、ゆとりをもって仕事ができなかった。
- 利用者を抱え上げる際の体の負担はかなり軽減されるが、時間がかかる。
- 機器によっては重いものもあるので運ぶときに疲れる。

4 介護ロボット利用による精神的負担感の変化 (人)

減った	増えた	変わらない	無回答
3	17	28	1

変化の理由

- 移乗・移動が大変な方の介助がなくなり楽になった。
- バイタルを記録する時間が短縮されとてもよい。
- 理解不足のまま導入され、精神的にきつかった。
- 操作方法が難しくゆとりをもって仕事ができなかった。
- 操作方法を覚えることや使用することに義務感を感じるによりストレスになった。
- 落としたり引っかかったりしないように注意が必要になる。
- 身体的負担は軽減するが、時間がかかるため他の仕事に影響が出る。

5 介護ロボット利用による作業時間の変化 (人)

短くなった	長くなった	変わらない	無回答
5	29	14	1

変化の理由

- 記録の時間が短くなった。
- ロボット導入当初は時間がかかったが、慣れると短縮された。
- ロボットの準備や吊り上げ・吊り下げに時間がかかる。
- 2名の職員で3分の仕事が1名の職員で10分かかる。

6 介護ロボット利用による介護作業全体の負担の軽減状況 (人)

負担軽減されたと思う	負担軽減されたと思わない	無回答
36	12	1

変化の理由

- 無駄な作業が減るから。
- 移乗に際して力のない人や年配の方でも抱えられるから。
- 慣れるまでは大変だが、慣れたら軽減されると思う。
- 使いこなすことができれば早く安全に使えると思う。
- 見守り機器、自動入力に関しては有効的である。
- もっと使いやすく、それぞれの現場に合ったものであればよりよい環境を作れると思う。
- 直接介助は人が行った方が良いが、記録作業はロボットでよい。
- ロボットの操作や準備に時間がかかり、その他の業務が圧迫される。
- 人にしかできないことが多く、ロボットを置く場所が必要になるから。
- 人手不足は解消されない。

7 介護ロボットに期待する事

- 身体的・精神的負担の軽減
- 安全性の確保
- 操作性の向上
- 非常に便利で時間的な効率も良くなることから、そうしたロボットが普及しやすいよう小型化してほしい。
- 見守りができるロボット
- 介護士の動きを本当に理解した上でサポートしてくれるもの。
- 簡単に利用できるようになること。

8 機器ごとのアンケート結果

分野	導入機器	介護職員の意見等
見守り	<ul style="list-style-type: none"> • Neos+Care (ノーリツプレジジョン) • みまもり CUBE (ラムロック) 	<ul style="list-style-type: none"> • 入室回数が減少した。 • シルエットで写るため、利用者のプライバシーが守られる。 • 転倒、転落を未然に防ぐことができた。
記録	<ul style="list-style-type: none"> • スマ〜人! Helper (インフォメックス) 	<ul style="list-style-type: none"> • その場で入力できるため、記録時間を短縮できた。 • バイタル記録が自動入力のため、早くなった。 • 1人ごとの都度入力で一括入力できない。 • 入力間違いがあると、PCでしか修正できない。
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> • インカム 	<ul style="list-style-type: none"> • 職員同士、瞬時に連絡できるようになり、情報共有や意思疎通がしやすくなった。 • 緊急時の対応が迅速になった。 • 機器が重くて耳に負担がかかり、大きくて介助の邪魔になり、イヤホンコードが利用者に引っ張られるため危険。
移乗支援 (非装着型)	<ul style="list-style-type: none"> • 移乗アシスト装置 (安川電機) • SASUKE (マッスル) 	<ul style="list-style-type: none"> • 1人で操作でき、腰痛予防など身体的負担が軽減された。 • 利用者の皮下出血、剥離内出血、打撲のリスクが減った。 • 機器が大きく重く、準備と操作も時間がかかる。
移乗支援 (装着型)	<ul style="list-style-type: none"> • スマートスーツ (スマートサポート) 	<ul style="list-style-type: none"> • 身体的負担が軽減されたように感じた。 • コルセット利用者には不向き。 • スーツの調節が難しくサイズが合わない。
立ち座り・移動支援	<ul style="list-style-type: none"> • Hug (FUJI) 	<ul style="list-style-type: none"> • 1人で操作でき、身体的負担が軽減された。 • 立位の補助や歩行の訓練になる。 • 機器が大きく重く、準備と操作も時間がかかる。 • 大きいため使用場所が制限される。 • 要介護度が高い人や意思疎通が困難な人、身体的障害がある人は使用困難など、利用者は限られるが、利用できる人が施設全体の3分の1ほどいれば有効に思える。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> • PALRO (富士ソフト) 	<ul style="list-style-type: none"> • 入居者の笑顔が増え、明るくなった。 • レクレーションに利用できる。 • 利用者とのコミュニケーションがとれる。 • 滑舌の悪い利用者の声を聞き取れない。
リハビリ	<ul style="list-style-type: none"> • Tree (リーフ) 	<ul style="list-style-type: none"> • 歩行訓練に対する利用者の意欲が向上した。 • 引きこもりが解消され訓練を目的にフロアに出てくるようになった。 • 利用者だけでの利用はできず、常に付き添いが必要になるため、他の業務の負担になった。